

令和6年度 三木市特定教育・保育施設評価 目標達成計画

(園所名) 清心認定こども園

観点	②異年齢集団での遊びや生活を通して社会性を培う教育・保育
項目	内 容
園の現状や取組、課題	異年齢保育を通して様々な友だちと関わることで、社会性や協調性、思いやりの気持ち芽生えることを願い、また、子どもたちが年齢の枠を超えて共に学び合い、成長することを目指し、本園では、0-1・1-2・3-4歳児の異年齢保育を行い、活動によって年齢別保育を行っている。 様々な友だちとの遊びから発見や気づきを互いに表現できるようになることが課題であり、保育者は、幅広い年齢に応じた遊びの提供や個々の発達過程を理解することが大切である。
目標	○ 様々な年齢の友だちと触れ合う中で、考えを出し合い、協力して遊びを作り出すことを楽しむ。 ○ 自分の気づきや思いを、相手に伝えようとする。 ○ 子どもたちが、穏やかに過ごす心地よさを感じる。
目標達成に向けた具体的な取組内容	○ 子どもが興味・関心を持つ遊びを提供したり、年齢ごとに子どもの思いを取り入れたりしながら展開する。 ・ ルールのある遊びを話し合う場を持つ。 ・ 自分の思いや考えを話す機会を増やす。 ・ 活動の準備等、自分たちでできることに意欲的に取り組む気持ちを育てる。(5歳児) ○ 一人ひとりに応じた関わり(遊び・生活)や子どもの様子を保育者間で話し合う。
成果	○ 日々の異年齢保育や活動ごとの年齢保育を行う中で、多くの友だちと関わりを持ち、話し合うことで言葉が増えたり、新しい遊びの発見をしたりするなど、刺激を受けることができた。 ○ 運動会ごっこや発表会など、一緒に参加できる嬉しさや楽しさを味わい、憧れや自信を持つことができた。 ○ 0-2歳児も朝夕の合同保育のふれあいから、異年齢の友だちに興味を持ったり、自分でやりたいと思えるようになっていたりしている。 子ども自身が意欲的に取り組める環境構成を職員で話し合い、整えたことで子どもたちが満足して遊ぶことができた。 ○ 5歳児は3-4歳児が困っていると言葉を掛けたり、助けたりする姿が見られる。また、意識して話し合いの場を持つようにすることで、自分の思いや考えを出し合えるようになった。
評価	異年齢の関わりを中心として、子どもたちの育ちを支えてきた成果があらわれている。大人から提供される遊びではなく、年上の子どもたちからの刺激を受けて、自分で発見することが増えているということは、より主体的に自分たちの活動を行っているといえる。5歳児は年下の幼児のことを気に掛けると同時に、自分たちで話し合うことができるようになってきている。3・4歳児混合のクラスでは、それぞれの良さが出るように工夫されている。0～2歳児は遊びの環境が整えられており、遊びに集中できるようになっている。今後は異年齢の良さを活かしながら、年齢ごとのねらいを明確化することに取り組んでいきたい。